

授業概要

生涯学習の概念や歴史的背景について把握すること、多様な学習機会に着目し、生涯学習とは何かを具体的にとらえていくことを目的とする。また、今日的な課題について、どのように捉え、対処していくのかを受講生自身が考えていけるような授業展開に努める。具体的には、以下の4点を本授業の目標として設定する。

- 1) 生涯学習の個人的要請と社会的要請を理解する。
- 2) 現代社会における生涯学習の役割と目的を理解する。
- 3) 自治体の生涯学習計画・実践について理解する。
- 4) 自分自身の生涯学習計画について考察する。

授業では適宜グループワーク等を取り入れ、他者との交流を通じた学びの機会をつくるとともに、受講者自身が主体的に学んでいけるような授業づくりを目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション ー授業の進め方、評価について
第 2 回	教育の場・領域 ー家庭教育、学校教育、社会教育について
第 3 回	生涯学習の理念と目的 ー生涯学習の背景、理念、目的について
第 4 回	生涯学習の歴史と政策 ー生涯学習の歴史的流れと政策展開について
第 5 回	家庭・学校との関係 ー家庭教育、及び学校教育の役割と位置づけについて
第 6 回	生涯学習と社会教育 ー生涯教育／生涯学習／社会教育の関係について
第 7 回	生涯学習関連行政 ー生涯学習を担当する行政の役割について
第 8 回	生涯学習の形態・方法・内容 ー生涯学習における具体的な形態・方法・内容について
第 9 回	生涯学習関連施設 ー社会教育施設の概要と実態、役割について
第 10 回	生涯学習の専門的職員 ー生涯学習を支える人々について（社会教育主事、司書など）
第 11 回	学校・家庭・地域の連携・協力 ー学校・家庭・地域の連携を図る取り組み、施策について
第 12 回	NPO／ボランティア ー生涯学習におけるNPOやボランティアの役割について
第 13 回	メディアと教育 ー生涯学習社会におけるメディアの機能と役割について
第 14 回	事例研究 ー自治体の生涯学習の実態と課題について
第 15 回	まとめ ーこれまでの授業の総括
第 16 回	筆記試験

到達目標

上記4点の目標を受講者が達成できること。

受講者自身が自分なりの教育観、生涯学習観を持つことができるようになること。

履修上の注意

- 1) 授業中に課す小テスト・リアクションペーパーは成績評価の一部となるので留意すること。
- 2) 授業中に意見を求めることがある。積極的な参加を求める。
- 3) 授業と関係のない私語は厳禁とする。
- 4) 上記シラバスは、受講者の関心やニーズに応じて一部変更の可能性がある。

予習復習

予習) 日頃から新聞等に目を通し、関連事項・記事について確認しておくこと。

復習) 授業で配布したレジュメを再度確認し、指摘した重要ポイントについて理解を深めること。

評価方法

- 1) 筆記試験 (60%)、
- 2) 授業内の小テスト・リアクションペーパー (30%)
- 3) 授業への貢献などの平常点 (10%)

テキスト

テキスト：特に指定しない。各授業の際にレジュメを配布する。

参考書：大桃敏行・背戸博文編『生涯学習ー多様化する自治体施策ー』東洋館出版、2010年。

その他は授業時に適宜紹介する。